

佳作

ピアノが教えてくれたこと

茨城県 下妻市立高道祖小学校六年 神郡 夏希

私には五歳から続けているものがあります。それはピアノです。ピアノに教えてもらったことがたくさんあります。

それは五年生の時です。五年生の二学期、宿泊学習の計画をたてている時でした。先生が入館式で校歌の伴奏をやるからと言って、ひく人を募集しました。私のクラスでピアノを習っているのは私を入れて三人です。私はやりたくないと思っていました。でも先生は私にお願いしました。その時私は、「なぜ私なのだろう。もっと上手な二人もいるのに。」と思いました。宿泊学習まであと二週間というところでした。こんな短い時間で私なんかが上手にひくことができるのだろうかと不安でいっぱいでした。

でも私はすぐにどうかなるさと自分に言い聞かせました。それから私はどうかなるさと練習はしましたが、きつとどこかで手を抜いていたんだと思います。

そんなある日、宿泊学習の練習で校歌を合わせるということになって合わせてみたら、全然ついていけず、私がどれだけさぼっていたのか、気づかされました。その日から私は毎日何時間も練習しました。どんなに練習してもなかなかひけない時は、伴奏うなんて断ればよかった、ピアノなんて大っ嫌いと言いた日もありました。

でも、少しずつリズムをとれたりするとピアノが楽しくなって、お母さんや妹にひいて聞かせていました。そして全部ひけるようになった頃、またみんなと合わせる日がきました。みんなと合わせて成功した時、

みんなからスゴイという声が出ました。その時、今まで感じたことのないような感動がこみ上げて来ました。

そして宿泊学習当日。とうとう練習の成果をみんなに見せる時が来ました。そして全てまちがえずにひけた時はとび上がった喜んでしまいました。

私はこの経験で自分に自信がつかしました。この自信で卒業式の校歌の伴奏も進んでひきうけました。卒業式の日のプレッシャーの中で全力でひいた校歌は、ずっと心の中に残るよい経験となりました。

このようなたくさんの経験の中で、たくさんピアノに教えてもらい、ピアノの技術と心も成長しました。

そして今は発表会へ向けて必死に練習しています。くじけそうになった時も、五年生のあの経験を思い出せばどんなつらいことも頑張ろうと思えます。

「努力は成功への第一歩」私はピアノをやっている、この言葉に出会いました。この言葉をピアノだけでなく全てのことに生かしてチャレンジしていきたいと思っています。